

府中町あるきと歴史散歩

文化財としての地名⑥ 昭和初期の町内会名（1）辻

すると、字辻は本町二丁目の大部分と本町二丁目・三丁目・山田一丁目の各一部分と考えられる。「辻」には山王社

（写真②）と道祖神社（いばおとし神）があり、古くから信仰された。その他、この地区には府中小学校・府

中公民館・府中町歴史民俗資料館（元府中町役場）・府中えのみや郵便局・広島市農協

の対岸には埃宮（えのみや）（多家神社）もあり、府中町の中心的な地域であった。

府中町文化財保護審議会委員

熊野俊浩

問い合わせ

教育委員会生涯学習課
☎ 286-3272

昭和初期の頃の府中町内の集落は南北に通る県道府中・祇園線、県道府中・海田線より東側にほとんど分布していた。県道より西側では出張・市、浜田、茂陰、鹿籠などにわずかに集落が存在していた。現在の鶴江・大須地域は水田が分布し、家屋は見られなかつた。

写真① 昭和29年当時の府中変電所付近から鶴江、本町方面を撮影

（1）字 辻（宮乃町）

「この地はもと国府として繁盛を極めた時代には、十字街路に当たり、家屋が密集して、繁栄を極めた。宮乃町と呼ぶのは、安芸国総社の所在地であつたことがその理由であろうか。いずれにしても、この地方は森林伐採の結果、榎木川（現在の名称は榎川）の氾濫のため、一集落全部を流出し、死者まで出したこと

籠（おぐい）は古い歴史に基づいた所が多く、現在も生き続いている。第二次大戦中は隣組・隣保班などが組織されて、人々の結びつきを強くし、行政組織の末端として活用された。今後、当時の15の町内会名（字名）について考えていくこととする。

も度々あつたと聞けば、人家が減少し道路も変更したのだろうか、詳細不明。（菅原守編「芸州府中荘誌」から）

「辻」は道路が十字形に交差している所で、四辻とも言

われる。国府の時代には、府中の中心街路として重要な場所で、家屋が密集していたと

言われている。現在の埃宮橋から府中変電所に通じる県道府中・祇園線がほぼその位置とされている。現在の辻の道

とされる。現在の辻の道祖神の辺りが「四辻」の一つ

という説がある。中世まではこの県道府中・祇園線は「大道

道」と呼ばれ、これより西側は海であつたといふことである。現在の埃宮橋より北側部

分を「北浜」、埃宮橋より南側で松崎八幡別宮に至る海浜を「南浜」と呼んでいた。現



写真② 山王社(三翁神社) 本町三丁目



辻町内会付近の文化財と各施設について



写真③ 道祖神社(導神社) 本町三丁目